

第18回

ヘブル語講座アウカルト

【ダーヴァール】

ことば

初めにことばがあった。

(ヨハネ1:1)

●ヘブル語の「ダーヴァール」は神の「ことば」を意味すると同時に、神の御子という意味です。初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった(ヨハネ1:1)とありとあります。ことばである御子は御父の懐におられた方であり、御父と向き合っておられた方であり、御父と一つである方です。ですから、御子はことばとして御父を表現する唯一の方と言えます。ことばである「ダーヴァール」の語源は、神が語る、告げるを意味する動詞「ダーヴァール」で、旧約で1145回使われています。同義語の「アール」は5093回で、旧約の中で最も多く使われている動詞です。このことから、聖書の神は「語られる神」だということが分かります。

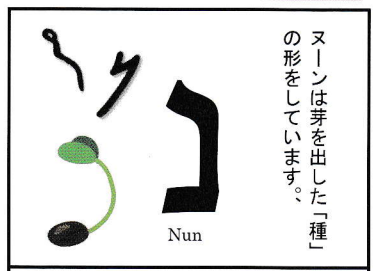
イスラエルの民が430年間過(こ)したエジプトから解放され紅海徒渉をした後、神は彼らを荒野に導かれました。「荒野」は「ミドゥバール」と言います。これは「ダーヴァール」に接頭語の「ミ」が付いた言葉です。「ミ」が付くと「場所」という意味になります。「ミ」が「ミドゥバール」で「神が語られる場所」となるのです。これが「荒野」の真の意味であり、神はイスラエルの民に語るために彼らを荒野に導かれたのです。しかしながら、彼らは神の語ることばを信じていることができません。40年間荒野をさまようことになりました。第二世代の者が約束の地カナンに入ることになりましたが、そのときモーセは荒野経験の意義について語りました。「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということこそ、あなたに分かるべきだ

めであった。(申命記8:3)。

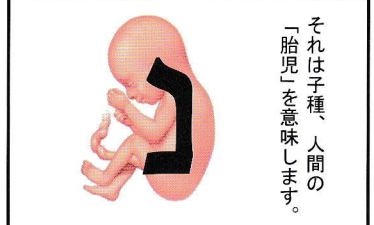
●イエシユアはまさに「神の口から出る一つ一つのことばで生きた」方(マリビング・トラー)であり、神の口から出ることを語って人を生かすことのできる方です。最後の「アダム」である御子イエシユアは、33年半の生涯を通して「最初のアダム」を終わらせ、三日目に死からよみがえり、「いのちを与える御霊(霊)」となって私たち人の霊を再生し、その霊の中に内住してくださいました。このことによって、「キリストにある新創造」がなされたのです。イエシユアによる一連の贖いはすでに神の側では包括的になされているのですが、いまだその現われは完全ではありません。やがて、私たちのため、メシア王国において初めて、「主の御口から出るすべてのことばで生きる」ということが成就するのです。ですから、からだが贖われるキリストの空中再臨のとき(テサ4:17、コリ15:52)、すなわち携挙のときを私たちは切に待ち望まなくてはならないのです。

(銘形秀則)

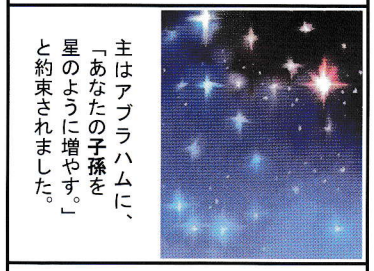
はじめに神は...



ヌーンは芽を出した「種」の形をしています。



それは子種、人間の「胎児」を意味します。



主はアブラハムに、「あなたの子孫を星のように増やす」と約束されました。



やがて主イエスは再臨され、イスラエルを再建し、その約束を果たされます。

作・神田海

編集後記 (史料・機関誌委員会から)

「そんな心配するなよ...行き先は決まっているんだから!」夜遅く車を運転して戻る息子の帰宅に、安堵する私への息子の軽いひと言が、時折、何かにつけて思い出され、心探られるのです。

ここ数年間、私達の日常生活はコロナ騒動で明け暮れ、社会も学校も家庭も、そして又、教会も振り回されて、やっと終息と快復へと向かっている様に見えます。治療薬、治療法が整い、インフルエンザの一種となりましたが、ワクチン接種も継続中、時々不安の声も聞こえます。

さあ、私達は、喜びと感謝と確信をもって、教会の日常である、礼拝、昼食会、お祈り会、讚美集会、一つひとつの交わりを取り戻しましょう!

全知全能の神、神様に不可能は無い、髪の毛一本さえ：神の国と神の義を第一に、必要は全て添えて与えられるのです。

(K・N)

発行所 宗教法人 日本神の教会連盟

東京都練馬区羽沢二丁目一九

練馬神の教会内

相原典之

編集者 沼 慎二

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話&FAX 〇九二(九二四)五〇九八